

神の召しに答えて、彼の時代の手段、すなわち彼の勝利者となって、
時代を転換させる

聖書：ダニエル 1:4-9. 2:17-19. 4:25-26, 32. 6:10-11.
9:1-4, 23. 10:11, 19. 11:32 後半. 12:3

- I. 神は、時代の行動、時代を転換させる行動を持つとうとするときはいつも、時代の手段を得なければなりません。わたしたちは神に対して、時代の価値のある人とならなければなりません——啓 12:5-11. 1:20. ダニエル 12:3. マタイ 13:43 :
- A. わたしたちは、自分の行なっている事を考慮して、次の時代をもたらす必要があります。これは特別な時です。ですから、特別なクリスチャンたちが特別な働きを行なう必要があります—— 16:18. 啓 19:7. I コリント 1:9. 啓 2:4-7. コロサイ 1:18 後半. ヨハネ 17:21. I コリント 14:4 後半. エペソ 4:16. コロサイ 2:19。
- B. 主の回復の原則は、ダニエル（「神はわたしの裁き主」）、ハナニヤ（「ヤハは恵み深く与えた」、あるいは「ヤハの恩恵を受ける」）、ミシャエル（「だれが神のようであるか？」）、アザリヤ（「ヤハは助けた」）に見られます。「ダニエルとその仲間」は、絶対的に神と一であり、サタンの企みに勝利しました。彼らは、神の民の捕囚の時代を、彼らがインマヌエルの地へと帰還する時代へと転換させました。それは、神の家と神の都を建造して、神に表現と権威を得させるためです——ダニエル 2:13, 17. イザヤ 8:8. 参照、啓 17:14 :
1. 神の目に、勝利者は「尊ばれる人」、さらには「尊さそのもの」でさえあり、神が時代を転換させるために用いることのできる人です—— I ペテロ 2:7. ダニエル 9:23. 10:11, 19。
 2. 唯一の勝利者としてのキリストは、すべての勝利者を含んでいます。この唯一の勝利者はわたしたちの霊の中に住んでおり、わたしたちを彼の勝利者にならせます——ヨハネ 14:30. ダニエル 2:34-35. 啓 19:7-21. I ヨハネ 5:4, 18-19. 啓 3:21。
- C. 主は時代を転換させる人を起こして、神の表現と権威を回復する必要があります。墮落した人類の間では、神の表現は破壊されており、神の権威は否まれています。ダニエルとその仲間は、真に自分たちを通して神が表現されるようにし、また真に神の権威の下にとどまりました——創 1:26. ダニエル 3:14-30. 4:17, 26. 啓 22:1-2。
- II. ダニエルは仲間を持っており、彼らと共に彼は神に対して絶対的に献身しており、またサタンに従う時代から神へと分離されていました——ダニエル

1:4-8. 5:12, 22. 6:10 :

- A. 時代を転換させるために神が用いる人たちはみな、ナジル人でなければなりません。すなわち、自発的に献身した人であり、絶対的に、また徹底的に神へと聖別されています——民 6:1-8, 22-27. 詩 110:3. ルカ 9:62. ピリピ 3:13-14。
- B. ダニエルとその仲間はまだとても若かったのですが、反対の証しとして立ち上がりました。それは、アンテパスがペルガモに在る召会において行なった事と似ていました——啓 2:13。

Ⅲ. ダニエルは、神の言を通して神の願いへと結び付きました——ダニエル 9:1-4.

申 17:18-20. II テモテ 3:16-17. エペソ 6:17-18. 詩 119:11, 24 :

- A. ダニエルは、神の言を定期的に読む人であっただけでなく、神の言へと結び付いている人でした：
 - 1. ダニエルは、神がイスラエル人のために捕囚の七十年を定めていることと、七十年の後に神が戻って来てイスラエル人を祝福することとを、エレミヤ書から読み取った時、直ちに断食して祈りました。ダニエルは御言を通して神の願いに触れるやいなや、直ちにその願いへと結び付きました——ダニエル 9:2-3。
 - 2. ダニエルはレビ記を読んだ後、汚れた食物をもはや食べることができませんでした (ダニエル 1:8-21)。彼はエレミヤ書を読んだ後、神の民の復興のために断食して祈らずにはいられませんでした (29:10-14)。
- B. わたしたちは祈りの霊と雰囲気の中で神の言を読み、神の言から神の願いに触れなければなりません。それから、わたしたちは直ちにその願いへと結び付かなければなりません。聖書はわたしたちの生活に影響を与えるべきであり、わたしたちは聖書へと結び付くべきです——参照、詩 119:11, 15-16, 133, 140. II コリント 6:14-18。

Ⅳ. ダニエルは、祈りの人であり、優れた霊を持っていました。彼は天の王国 (天の支配) の実際の中で、神の支配の下で生きました——ダニエル 2:17-19, 28.

6:10. 9:1-4, 17. 5:12, 14. 6:3. 5:22-23. 4:25-26, 32 :

- A. ダニエル書第 6 章の中心は、神のエコノミーを遂行するための人の祈りです。人の祈りはレールのようなものであり、神の行動が前進するための道を整えます。祈りによる以外に、神のエコノミーを満たし、成就させる道はありません。これはこの章の内なる秘訣です。
- B. 神と協力する人の最高の表現は、祈りです。神は、彼の忠信な祈りの経路を通して、地上で神のエコノミーを遂行します——マタイ 26:41. 使徒 6:4. エペソ 6:17-18. コロサイ 4:2。
- C. 祈りは、主の回復の生命線 (ライフライン) です。サタンがわたしたちの祈りを妨げようとすればするほど、わたしたちはますます祈るべきです

——ダニエル 6:10, 参照、4-9 節：

1. ダニエルは、神の御前で生きている人でした。彼は祈りに依り頼んで、人ができない事を行ないました。彼は祈りに依り頼んで、人が理解することができない事を理解しました—— 2:17-19. 9:1-4. 10:1-3, 11-13。
2. ダニエルの祈りは、完全に神のためであり、自分のためではありませんでした。彼は祈りを通して、最高の協力を神に与えました—— 9:2 後半. エレミヤ 25:11. ダニエル 9:17. 列王上 8:48。
3. ダニエルは祈りの人であったので、神に認められ、神に用いられることができ、神の奥義を語り出すことができました——参照、使徒 6:4。
4. ダニエルの祈りは最高峰に到達しました。ダニエルは神に、神ご自身のために事を行なうよう求めました。ダニエルは祈りました、「わたしたちの神よ、今、あなたのしもべの祈りと嘆願を聞いて、主のために、荒れ果てたあなたの聖なる所の上に、あなたの御顔を輝かせてください」——ダニエル 9:17。
5. 神に一心に時代を転換させる祈りを持って祈ったダニエルのような人だけが、神に用いられて時代を転換することができます。

V. ダニエルは、自分を犠牲にする人であり、殉教者の霊を持っていました——ダニエル 6:10-11：

- A. ダニエルの仲間たちは、真の殉教者の霊を持っていました。彼らは命の代価をもって、唯一の神としての主のために立ち、偶像礼拝に抵抗し、ネブカデネザルの命令によって、火の燃える炉に投げ込まれました—— 3:19-23。
- B. ダニエルは、生命の危険を冒してまで祈りました。大臣や太守たちの意図は、ダニエルを滅ぼすことでしたが、彼らの背後にいたサタンの意図は、神が彼のエコノミーを遂行するために用いていた祈りの経路を断ち切ることでした—— 6:4-24。
- C. 時代を転換するために神が用いる人はみな、ただ一つの事を恐れます。すなわち、神に違犯し、神の臨在を失うことを恐れます—— 3:17-18. II コリント 5:9-10. 参照、詩 51:11. ヨシュア 7:4。

VI. わたしたちが今日の勝利者となって、神の時代の手段として、時代を転換させるためには、時間を贖い取らなければなりません。コロサイ第 4 章 5 節は、「時を贖い取りなさい」と言っており、エペソ第 5 章 16 節も、「時を贖い取りなさい」と言っています：

- A. わたしたちはこの二つの節を「機会を贖い取りなさい」と訳すこともできます。わたしたち、主に仕えることを学んでいる人は、わたしたちがかしらの指示に鈍感で、彼の導きが無感覚であるという感覚を、かしらに持たせてはなりません。わたしたちは主にわたしたちの霊的感觉と霊的視力を訓練していただいて、機会がやって来る時はいつでもそれを感じ取り、そ

れらを最大限に活用しなければなりません。

- B. 主がわたしたちのために定めている日々の中で、おそらく昨日はわたしたちの生活の中で最も大いなる日であるべきでしたが、わたしたちは昨日通常の方法で生きたかもしれません。これが機会を失うことの意味です。わたしたちに神の案配がない日は一日たりともありません。
- C. 主はわたしたちに、主にとって非常に有用な人となる可能性を秘めた人を尋ね求めるようにという考えを与えたかもしれません（参照、使徒 9:10-19、22:12-16）。しかし、その日わたしたちは行きませんでした。なぜなら、天候があまりにも暑いのをわたしたちはいやがったからであり、またわたしたちがあまりにも怠惰であったからです。
- D. ある日、わたしたちは主にまみえるでしょう。今わたしたちに満足を与えているわたしたちの生活の事柄を、わたしたちはおそらく悔いるでしょう。多くの時、わたしたちは神のみこころに達しておらず、愚かに振る舞ってきました。わたしたちは忠信にキリストを生きず、キリストを成長させず、キリストを表現せず、あらゆる面でキリストを増殖させず、彼のからだを建造してきませんでした——Ⅱコリント 5:10。マタイ 25:21-23, 25-26, 30。コロサイ 1:9-10。マタイ 7:26。25:2-3, 8。
- E. ダニエル書第 11 章 32 節後半は言います、「自分の神を知る者たちは、力を示して事を行ないます」。これは、神の民が新しい地を開拓することを意味します。わたしたちは神のみこころを知れば知るほど、ますます機会をとらえるでしょう。神を知る人たちは、決して日ごとに習慣的に生きないでしょう——参照、申 4:25 とフットノート。
- F. 「わたしたちは、神が常受（ウイットネス）兄弟の働きを祝福されたのを見てきました。彼の長所は、彼はどんな機会も過ぎ去らせないことです。彼が機会を失うのを見いだすことはできません。いったん機会があると、彼はそれを利用します」——1950 年 7 月 19 日のウオッチマン・ニー兄弟の語りかけ（ウオッチマン・ニー全集、第 55 巻、第 21 号）。
- G. もしわたしたちの奉仕が神のみこころにしたがっているなら、一日は多くの日と等しくなるでしょう。しかし、神のみこころの外で過ごした日は勘定されません。神の王国の外で、神に雇われる人はいません（マタイ 20:6-7）。ネブカデネザルは自分の働きに満足していました（ダニエル 4:30, 37 後半）。これはバビロンの原則です。
- H. しかしながら、主に感謝します。彼はわたしたちに慰めの言葉を与えてくださいました。それは、ヨエル書第 2 章 25 節の言葉です。いなごが食べた年は、わたしたちに償い戻されます。もしわたしたちが自分の日々を無駄にするなら、十年は一日と等しくなるでしょう。しかし、もしわたしたちが時を贖い取るなら、一日は十年と等しくなるでしょう。

I. 詩篇第 90 篇 12 節は言います、「わたしたちに自分の日々を数えることを教えて、知恵の心を得させてください」。第 84 篇 10 節は言います、「あなたの外庭にいる一日は、よその千日にもまさります」。天の日々は、二十四時間で数えられません。神は日々を数える別の方法を持っています。

VII. 今日、バイタルになる道は、主の召しに答えて勝利者になることです。勝利者はバイタルな人です。バイタルな人（生き生きとしていて活動している人）とは、祈る人です——詩 119:88, 159. ダニエル 11:32 後半：

- A. わたしたちが新しいグループを形成する意図は、勝利者のグループを得ることです。こういうわけで、このグループは「バイタルグループ」と呼ばれているのです。全時間訓練も、勝利者を生み出すためにあります。すなわち、彼らは必死になって、サルデスの死に打ち勝ち（啓 3:1）、ラオデキヤのなまぬるさに打ち勝ち（15-16 節）、ぶどうの木とその枝に関して述べられているヨハネ第 15 章の主によって対処された実を結ばないことに打ち勝つ者たちです（1-8, 16 節）。
- B. わたしたちはバイタルになるつもりなら、主と緊密で、親密で、徹底的な交わりを持つ必要があります、また追い求める心のある聖徒たちとも緊密で、親密で、徹底的な交わりを持つ必要があります。わたしたちは主に導きの下で、共に労苦することのできる何人かの仲間と接触する必要があります。それは、ダニエルが三人の仲間を持っていたようにです——ダニエル 1:6。
- C. 今日の召会生活（エルサレムで予表される）の中で、わたしたちは主の勝利者（シオンで予表される）でなければなりません。これが、主の召しにしたがって、勝利者の時代にいることです（啓 2:7, 11, 17, 26-28. 3:5, 12, 20-21. 21:7）。召会生活の中にいるのは一つの事ですが、召会生活の中で勝利者であるのは別の事です（14:1-5）。
- D. わたしたちは勝利者、バイタルな人になるという決意をしなければなりません。勝利者は、キリストに置き換わるあらゆるものや、キリストに反対するあらゆるものに勝利を得る者です——士 5:15-16. I ヨハネ 2:18-20, 27。

VIII. わたしたちは今日の勝利者として、イッサカルの子たちのように、「時を知っていて、イスラエルが何をなすべきかを知っている人々」であるべきです（歴代上 12:32 前半）。次のページのリー兄弟の適用における経験を見てください。

煙台の復興の前夜、日本人が中国に侵入してきて、中国人のすでにつらい生活をさらにつらくした時、リー兄弟は彼の個人的な手記に以下の内容を書きました：

1942 年 12 月 4 日の夜、煙台において

地上の人々は災難に苦しんでおり、諸召会は困難の中にあります。これは神の

心の願いの時代ではなく、神の手續きの時代です。神は彼の手續きを用いて、彼の心の願いに到達しつつあります。手續きの時代から神の心の願いの時代に転換するために、人は時代を転換させる祈りをしなければなりません。ダニエルはそのような人でした。

地上が災難に苦しんでいるのは、地上の人々が神を欲しておらず、神の事を顧みていないからです。ですから、もし聖徒たちが祈って、災難の時を終わらせたのなら、聖徒たちは神の要求に応じ、神と神の必要を顧みなければなりません。おお！ 今日のこれら多くの災難は、わたしたちを目覚めさせて、もはや地に対して生きることがないようにさせるべきです！ おお！ 今日、わたしたちは真に自分自身をささげて、召会のために神の要求に応じるべきです。それは、神が道を得て入って来て、手續きの時代を神の心の願いの時代に転換させるためです」。 (ウイットネス・リー全集、1932-1949年、第2巻、英文)